

# 古殿町全域

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 作付面積を12haまで拡大するとともに、水稲との複合経営による収益増を目指す。
- 湿害対策の実施の定着を図り、収量を安定させる。
- 大豆、そばの輪作体系（3年に1回程度ほ場を交換）の確立を図る。



## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】大豆：3.6ha（R3）
- 【会員構成】法人1経営体、個人生産者15戸（R3）
- 【栽培品種】タチナガハ
- 生産した大豆は町が全量買い上げし、大豆ミートに加工している。大豆ミートは道の駅での販売や町内の学校給食に提供されている。



## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <需要に応じた生産の取り組み>

- 生産者、町、実需者の要望を踏まえて、作付品種を検討している。現在、「タチナガハ」に代わる「里のほほえみ」の現地適応性を調査中。

### <生産改善に向けた新技術・新品種の実証と導入>

- R4に湿害対策技術の「耕耘同時畦立て播種」実証展示
- R5に雑草防除技術の実証展示（剤型の検討）
- R6に新品種の比較展示



## 4 取組成果

### <新規生産者の確保、面積拡大>

- 会員数の増加に伴い（R3：法人1経営体、個人生産者15戸→R6：法人2経営体、個人生産者18戸）、面積も拡大（R3：3.6ha→R6：12.7ha）(ha)

### <湿害対策技術の導入による出芽の確保>

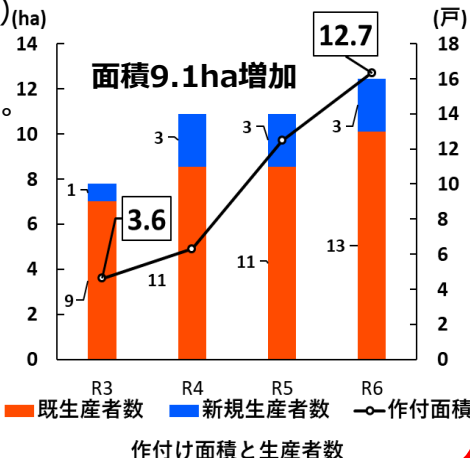
- 耕耘同時畦立て播種により、収量確保が可能であることを実証した。
- R5に2戸、R6に1戸で畝立て播種が取り組まれた。

### <土壌処理剤の剤型変更による軽労化>

- 粒剤と液剤の作業時間および、除草効果を検証した。
- 【散布時間】粒剤：13分/10a、液剤26分/10a  
【除草効果】同程度

### <「里のほほえみ」の現地適応性試験>

- 現栽培品種と「タチナガハ」と「里のほほえみ」の栽培比較を行った。
- 【単収】里のほほえみ：158kg/10a、タチナガハ：150kg/10a



## 5 課題（7年度のポイント）

- 適期の雑草対策（除草剤散布・中耕培土）実施を徹底するために、巡回指導を行う。
- 標高が低いほ場での「里のほほえみ」の栽培適性やそれ以外の品種の栽培適性を検討する。
- 大豆、そばのブロックローテーションによる輪作体系の確立を目指す。